

アクロポリスの要塞

—鉄器時代Ⅱ期～ペルシャ時代—

テル頂上の平坦部は、鉄器時代Ⅱ期に方形の周壁が築かれ、要塞として機能していたと考えられる。それはすでに地形からも想定されたことであったが、F地区の発掘調査でより鮮明になった。そこから遺跡を東西に直線的にはしる強固な二重の要塞壁（幅1.5mと1.1m）が発見されたからである。出土土器から判断すると、この建造物の年代が鉄器時代Ⅱ期後半に属することは間違いがないが、より厳密に、それが北イスラエル王国時代に建造されたものか、それとも王国滅亡後のアッシリア属州時代にか、という点は今後検討の余地を残す。その検討結果はイスラエル史研究に重要な意味をもたらしてくるだろう（月本）。



ピットの上からとまらって出土した土器



ピットの下部から出土した鉄製鎌



B地区出土の留め金



人面を表した石製容器



アッシリアの土器
(エン・ドール考古学博物館)



鉄器時代Ⅱ期～ペルシャ時代の要塞（アクロポリス、F地区）